晏子の御

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は二つの「以て〜と為す」、「是を以て」「乃ち」、そして妻が晏子と夫を比べた言葉**です。

あらすじ＝斉の宰相・晏子が馬車で外出したとき、御者の妻が門のすきまから夫をのぞくと、夫は大きな車のかさを抱え、四頭立ての馬にむちを当てて、すっかり得意になっていた。帰ってきた夫に妻は離縁を願い出て、「晏子様は背が低いのに宰相として名高く、それでもいつもへりくだっている。あなたは背が高いのに人の御者にすぎず、それで満足している」と理由を語る。その後、夫は自分をおさえてへりくだるようになり、わけを聞いた晏子は彼を大夫に推薦した。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

晏子（あんし）斉（せい）の相（しやう）と為（な）り、①出（い）づ。②其（そ）の御（ぎよ）の妻（つま）、門間（もんかん）より其（そ）の夫（をつと）を闚（うかが）ふ。

其（そ）の夫（をつと）相（しやう）の御（ぎよ）と為（な）り、③大蓋（たいがい）を擁（よう）し、駟馬（しば）に策（むちう）ち、④意気（いき）揚揚（やうやう）として甚（はなは）だ自得（じとく）するなり。

既（すで）にして帰（かへ）る。其（そ）の妻（つま）⑤去（さ）らんことを請（こ）ふ。夫（をつと）⑥其（そ）の故（ゆゑ）を問（と）ふ。

妻（つま）曰（い）はく、「晏子（あんし）は⑦長（たけ）六尺（りくせき）に満（み）たざるに、⑧身（み）は斉国（せいこく）に相（しやう）たり、名（な）は諸侯（しよこう）に顕（あら）はる。今者（いま）妾（せふ）其（そ）の出（い）づるを観（み）るに、志念（しねん）深（ふか）し。⑨常（つね）に以（もつ）て自（みづか）ら下（くだ）る者（もの）有（あ）り。今（いま）子（し）は長（たけ）八尺（はつせき）、⑩乃（すなは）ち人（ひと）の僕御（ぼくぎよ）と為（な）る。然（しか）るに子（し）の意（い）は⑪自（みづか）ら以（もつ）て足（た）れりと為（な）す。妾（せふ）⑫是（ここ）を以（もつ）て去（さ）らんことを求（もと）むるなり。」と。

其（そ）の後（のち）夫（をつと）⑬自（みづか）ら抑損（よくそん）す。晏子（あんし）⑭怪（あや）しみて之（これ）を問（と）ふ。御（ぎよ）実（じつ）を以（もつ）て対（こた）ふ。晏子（あんし）⑮薦（すす）めて以（もつ）て大夫（たいふ）と為（な）す。

語注　晏子＝春秋時代の斉（せい）の宰相、晏嬰（あんえい）。「子」は男子を敬って呼ぶ語。相＝宰相。君主を助けて国の政治を行う最高の大臣。御＝馬車をあやつる人。御者。門間＝門のすきま。大蓋＝車の上に立てる大きなかさ（日よけ）。駟馬＝一台の車を引く四頭の馬。長＝身長・背丈。尺＝長さの単位。当時の一尺は、日本の一尺（約30センチ）よりかなり短い。諸侯＝各国の君主たち。妾＝女性が自分をへりくだっていう語。わたくし。志念＝考え・思慮。子＝あなた。相手を敬っていう語。僕御＝召し使いの御者。大夫＝国の高い位の役人。※原典（中国の古い本）では「門間」の「間」を「閒」と書いています。「闚」は「窺」と同じ意味の字で、教科書によっては「窺」と書きます。この問題では、ほかの字もふくめて日本の字体に直しました。※書き下し文は教科書によって少しずつちがいます。「斉の相たり」「門間よりして」「甚だ自得す」「長六尺に満たず（満たずして）」「身は斉国に相として」「常に以て自ら下ること有り」などと読むものや、「六尺」「八尺」を「ろくしやく」「はつしやく」と読むものもあります。お使いの教科書に合わせてください。

A　語句の意味と読み（1〜7）

(1) ②「其（そ）の御（ぎよ）の妻（つま）」の「御」の意味を書け。

(2) ②「闚（うかが）ふ」の意味を書け。

(3) ③「大蓋（たいがい）を擁（よう）し」の「擁」の意味を書け。

(4) ③「駟馬（しば）に策（むちう）ち」の「駟馬」の意味と、「策」のここでの意味を書け。

(5) ④「意気（いき）揚揚（やうやう）として甚（はなは）だ自得（じとく）するなり」の「意気揚揚」の意味を書け。

(6) ⑤「去（さ）らんことを請（こ）ふ」の「去る」は、ここではどういうことか。

(7) ⑬「自（みづか）ら抑損（よくそん）す」の「抑損」の意味を書け。

B　句法（8〜14）

(8) ⑥「其（そ）の故（ゆゑ）を問（と）ふ」の「故」の意味を書け。また、漢文で「なぜ〜か」と理由をたずねるとき、「故」の上につけて疑問を表す字を一字書け。

(9) ⑦「長（たけ）六尺（りくせき）に満（み）たざるに」は、白文では「長不満六尺」である。「不」「満」「六尺」を書き下し文で読む順に並べよ。また、「不」を書き下し文で平仮名にするのはなぜか。

(10) ⑧の前半「身（み）は斉国（せいこく）に相（しやう）たり」は、白文では「身相斉国」である。ここで「相」はどのような意味で使われているか。

(11) ⑧の後半「名（な）は諸侯（しよこう）に顕（あら）はる」は、白文では「名顕諸侯」で、「諸侯」に「に」を送って返って読む。このように「〜に」と場所や相手を示し、書き下し文では読まない置き字を一つ書け。

(12) ⑩「乃（すなは）ち人（ひと）の僕御（ぼくぎよ）と為（な）る」の「乃ち」は、ここではどのような意味か。前の「今子は長八尺」とのつながりにふれて書け。

(13) ⑪「自（みづか）ら以（もつ）て足（た）れりと為（な）す」と⑮「薦（すす）めて以（もつ）て大夫（たいふ）と為（な）す」は、どちらも「以て〜と為す」の形である。それぞれの意味を書け。

(14) ⑫「是（ここ）を以（もつ）て」の意味を書け。

C　主語・指す内容（15〜18）

(15) ①「出（い）づ。」の主語は誰か。

(16) ②の文で、「闚（うかが）ふ」の主語は誰か。また、「其（そ）の夫（をつと）」とは誰のことか。

(17) ⑤「去（さ）らんことを請（こ）ふ」は、誰が誰に願い出たのか。

(18) ⑭「怪（あや）しみて之（これ）を問（と）ふ」について、「怪しみて」の意味を書け。また、晏子は何について尋ねたのか。

D　口語訳（19〜22）

(19) ③④を含む「其の夫相の御と為り、大蓋を擁し、駟馬に策ち、意気揚揚として甚だ自得するなり」を口語訳せよ。

(20) ⑦⑧を含む「晏子は長六尺に満たざるに、身は斉国に相たり、名は諸侯に顕はる」を口語訳せよ。

(21) ⑨を含む「今者妾其の出づるを観るに、志念深し。常に以て自ら下る者有り」を口語訳せよ。

(22) ⑩⑪⑫を含む「今子は長八尺、乃ち人の僕御と為る。然るに子の意は自ら以て足れりと為す。妾是を以て去らんことを求むるなり」を口語訳せよ。

E 内容・記述（23〜25）

(23) ⑨「常（つね）に以（もつ）て自（みづか）ら下（くだ）る者（もの）有（あ）り」から、妻は晏子をどのような人物だと見ているか。三十字以内で書け。

(24) ⑫「是（ここ）を以（もつ）て」とあるが、妻が離縁を求めたのはなぜか。晏子と夫を比べて、六十字以内で書け。

(25) ⑮「薦（すす）めて以（もつ）て大夫（たいふ）と為（な）す」とあるが、晏子が御者を大夫に推薦したのはなぜだと考えられるか。⑬「自（みづか）ら抑損（よくそん）す」と、晏子に問われたときの御者の答え方をふまえて、五十字以内で書け。

F 文学史・故事（26〜28）

(26) この話の出典の書名・作者・体裁と、収められている列伝の名を書け。

(27) 本文の「晏子（あんし）」の「子」は、どのような意味で添えられた語か。また、晏子の名を書け。

(28) この話を収める列伝には、晏子より百年あまり前の斉の宰相の伝も収められている。その人物の名と、その人物と友人鮑叔との深い友情を表す故事成語を書け。

【テスト直前チェック】この三つ　❶二つの「以て〜と為す」を読み分ける。「自ら以て足れりと為す」＝（自分では）十分だと**思う**。「薦めて以て大夫と為す」＝推薦して大夫に**する**。同じ形でも意味がちがう。　**❷「是を以て」は「ここをもつて」＝だから。**「乃ち」は「そこで」ではなく「それなのに・なんと」。妻の言葉の筋道はこの二語で決まる。　**❸主語の入れかわりに注意。**出づ＝晏子、闚ふ＝妻、帰る＝御者、怪しみて問ふ＝晏子、対ふ＝御者。記述問題の答えは「晏子と夫の対比」と「御者が自ら改めたこと」に集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる